JAPAN FOUNDATION FOR PEDIATRIC RESEARCH

News Letter No.12

子どもたちの世紀

秋冬号

公益財団法人 小児医学研究振興財団

2014年10月1日

こどもの医療 ～医学研究から臨床現場へ～

平成26年度研究助成金・海外留学フェローシップ等募集要項

海外留学体験記 （詳細2～3面）

こどものアレルギー疾患治療の最前線 ～報告書～ （別冊）

◆ 特別寄稿

子どものアレルギー疾患の克服に向けて

独立行政法人労働者健康福祉機構
千葉労災病院長
河野　陽一

平成26年9月7日に国立成育医療研究センター講堂にて、「こどものアレルギー疾患治療の最前線」をテーマに市民公開講座を開催した。私は司会者として参加し、国立成育医療研究センター生体防御系内科部アレルギー科の大矢幸弘先生にこどものアトピー性皮膚炎の外用薬の使い方について、東京慈恵会医科大学附属第三病院小児科の勝沼俊雄先生にはこどもの喘息への対処法、そして昭和大学医学部小児科の今井孝成先生からは食物アレルギーの食事療法についてお話しして頂いた。さらに参加者から事前に伺っていた質問に答える形で、パネルディスカッションを組んだ。こどものアレルギー疾患の特徴の一つとして、特定のアレルギー疾患にとどまらず、アレルギーマーチとして知られるように複数のアレルギー疾患に年齢の変化とともに罹患することは珍しくない。そこで、保護者の方はアレルギー疾患の予後について関心が高い。また、それぞれのアレルギー疾患には共通の問題もあり、頻度の高いアレルギー疾患について3名の演者が一堂に会して解説したことは、保護者の総合的な理解そして将来への不安の解消に有効だったと言える。

事前に頂いた質問をみると、遺伝性や予後に関するものの他に、薬の使い方や副作用、特にステロイド薬治療への不安、食物アレルギーでは食事の進め方に加えて最新の免疫療法等ついても関心が高かった。3名の演者が大変分かりやすく治療法の「こつ」を含めて具体的に説明されたことで、市民公開講座への評価は大変高いものであった。

最近は、アレルギー疾患の新薬の開発が進められ、また病態についての新たな情報から治療法の大きな見直しが行われている。そこで、アレルギー疾患の治療法や日常生活の管理法等が比較的短い間に変わってきており、この短期間の変化が保護者の方々を混乱させる一因にもなっている。最近のアンケートでも市民公開講座の次回のテーマとしてアレルギー疾患が最も多く要望されており、市民公開講座等による情報提供活動の継続が重要であろう。

News Letter

研究助成金【小児科領域全般】

募集要項

1) 研究助成金： 1件　200万円以内
2) 助成対象研究課題：
　① 新しい感染症や急性疾患の診断・治療に関する研究
　② 小児の難治疾患、慢性疾患の本態解明と治療に関する研究
　③ 生活習慣病の予防に関する研究
　④ 遺伝子治療など高度先進的医療の開発のための基礎的研究
　⑤ いじめ、虐待、拒食、不登校など子どもの心のケアや心身症に関する研究
　⑥ 生命倫理など社会的問題に関する研究
　⑦ 国際医療協力の基盤となる母子保健に関する研究
　⑧ その他、子どもの健康に関する研究
3) 助成対象者：
　① 小児科の基礎的研究、臨床研究等に従事し、日本国籍を有する医師・研究者
　（平成26年12月31日時点で、50歳未満の者であること）
　② 助成対象研究課題をテーマとする研究会、シンポジウムの開催者
　③過去3年間において当財団の研究助成金を受けていないこと。

応募方法

当財団の定める交付申請書(当財団URLよりダウンロード)に必要事項を記入し、右記宛に送付。

締切：平成26年12月4日（木）必着

ジャパンワクチン研究助成金【感染症及び感染症予防ワクチン】

募集要項

1) 助成金額： 1件　200万円以内
2) 助成対象研究課題：
　① 感染症の疫学と診断に関する研究
　② 感染症予防ワクチンの開発に関する研究
　③ 感染症予防ワクチンの有効性・安全性に関する研究
　④ 感染症予防ワクチンの国際的ネットワークに関する研究
3) 助成対象者：
　日本国籍を有する小児科医師及びワクチンに関する研究者
　・ 平成26年12月31日時点で、40歳未満の者。
　・ 同一研究に対して過去に他から研究助成金を受けていないこと。
　・ 過去３年間において当財団の研究助成金を受けていないこと。

応募方法

当財団の定める交付申請書(当財団URLよりダウンロード)に必要事項を記入し、下記宛に送付。

締切：平成26年12月4日（木）必着

交付申請書・応募用紙の送付先及び照会先

公益財団法人 小児医学研究振興財団 事務局
〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル４Ｂ
Tel:03-5818-2601　Fax:03-5818-2602
E-mail:shouni-iken@jfpedres.or.jp　http://www.jfpedres.or.jp

優秀論文アワード

選考要項

アワードの概要

① 下記機関誌に掲載された、優れた研究論文を表彰する。
② 選考は各機関誌を発行する学会から優秀論文として推薦を受け、当財団の選考委員会が選考を行い、1件30万円、総計４件120万円を筆頭筆者へ授与する。
③ 平成26年12月31日時点で原則として、満40歳未満の執筆者を対象とする。

選考対象誌（平成25年1月～12月発行）

① 日本小児科学会機関誌
「日本小児科学会雑誌」、「Pediatrics International」から各1編
②-1) 日本小児神経学会機関誌
「脳と発達」、「Brain&Development」から各1編
②-2) 日本小児精神神経学会機関誌「小児の精神と神経」または日本小児心身医学会機関誌「子どもの心とからだ」から1編
※ ②-1)、②-2)の優秀論文はイーライリリーアワードとして表彰する。

選考結果発表

平成27年3月上旬に当財団ホームページ上で発表のうえ、平成27年第118回日本小児科学会学術集会会期中に表彰する。

公立大学法人福島県立医科大学医学部
小児科学講座准教授
川崎　幸彦

写真注釈:Vanderbilt小児病院NICUにて

イーライリリー海外留学フェローシップ【発達障害に関する研究】

募集要項

1）海外留学奨学金：1件　180万円／総額　360万円
2）対象研究：
　発達障害に関する基礎的及び臨床的研究
　（発達障害の定義：精神遅滞、学習障害、運動能力障害、コミニュケーション障害、広汎性発達障害、注意欠陥/多動性障害など）
3）応募資格：
　原則として、受賞後1年以内に出国し、海外の研究機関等において、一定期間（原則6ヶ月以内）研究や研修に従事できるもので、次の条件を満たしている者とする。
　① 日本国籍を有するわが国の大学、医療機関、研究機関に所属する小児科医師および小児医療研究者。
　② 具体的な研究または研修計画を提示できること。
　③ 研究終了後６ケ月以内に研究報告書の提出ができること。
　④ 平成26年12月31日時点で40歳未満の者。
　※応募は1施設から1名とする。【所属長（大学の場合は学部長）推薦】
　※過去の受賞者の申請は不可。

応募方法

当財団の定める交付申請書（当財団URLよりダウンロード）に必要事項を記入し、左記宛に送付。

締切：平成26年12月4日（木）必着

ジャパンワクチン海外留学フェローシップ【感染症及び感染症予防ワクチンに関する研究】

募集要項

1）海外留学奨学金：1件　350万円以内
2）対象研究：
　① 感染症の疫学と診断に関する研究
　② 感染症予防ワクチンの開発に関する研究
　③ 感染症予防ワクチンの有効性・安全性に関する研究
　④ 感染症予防ワクチンの国際的ネットワークに関する研究
3）応募資格：
　原則として受賞後1年以内に出国し、海外の研究機関等において一定期間（原則1年以内）研究に従事できる者で、次の条件を満たしている者
① 日本国籍を有する小児科医師及びワクチンに関する研究者
② 具体的な研究又は研修計画を提示できること
③ 同一研究に対して過去に他から海外留学奨学金を受けていないこと
④ 研究終了後6ヶ月以内に研究報告書の提出ができること
⑤ 平成26年12月31日時点で40歳未満の者
　※応募には所属長（大学の場合は学部長）の推薦書を添付のこと
　※過去の受賞者の申請は不可

応募方法

当財団の定める交付申請書（当財団URLよりダウンロード）に必要事項を記入し、左記宛に送付。

締切：平成26年12月4日（木）必着

留学体験記

Vanderbilt大学とVanderbilt小児病院留学見聞録

私は、イーライリリー海外留学フェローシップのご支援を頂きまして、2005年から米国Vanderbilt大学とVanderbilt小児病院に医学教育を学ぶために短期留学をする機会に恵まれました。Vanderbilt大学と小児病院は、アメリカ南部のテネシー州ナッシュビル市にあります。ナッシュビル市は、人口50万弱のテネシー州都で、政治や文化の中心になっています。Vanderbilt大学は1873年アメリカ大陸横断鉄道の父であるCommodore Cornelius Vanderbiltの寄付により創設されたテネシー州最大、アメリカ全土で第２位の雇用法人であり、Vanderbilt小児病院は、2004年に開院した200以上のベッド（小児集中治療室35床、新生児集中治療室60床）を有する8階建ての小児病院であります。

留学中、卒前医学教育システムとしての教育のカリキュラム、医師国家試験の仕組みやその評価システムの重要性について、また、卒後医学教育システムとしてのVanderbilt小児病院における小児科レジデント教育システムやレジデントの勤務状況および研修の具体的内容およびその評価プログラムなどについて学ぶことができました。その結果として、これら米国における医学教育が日本と比較すると非常に活発で充実していることを再認識しました。これは、米国の医学教育に対する膨大な組織力や資金などの国家支援体制に加え、教育に携わる者の熱意や妥協を許さない研修プログラムの作成とそれに対する評価システムの存在、患者や地域住民の多大な協力などに寄与する点が大きいからではないかと感じました。

今後本邦におきましても、より優秀で臨床経験豊かな小児科医を育成するためには、前述した点を日本に合った形で取り入れる必要性を痛感しており、帰国後、私は現在に至るまで福島県立医科大学にて医学教育の向上のために全力を注いでおります。今後ともより一層頑張る所存でありますのでよろしくお願いいたします。

最後に、今回の留学を援助して頂きました小児医学研究振興財団に心より御礼申し上げるとともに、貴財団の益々のご発展をお祈り申し上げます。

御　礼

賛助会員及び多くの協賛企業・寄付者の皆様のご支援により、今年度も昨年に引き続き市民公開講座を開催し、成功裡に終了することができました。引き続き、小児科医師・研究者の研究・留学費の支援及びアワードの授与を行い、今後も小児の医療・保健・福祉の向上に努めてまいります。皆様のご支援に心より御礼申し上げます。

当財団の賛助会費は、確定申告の際、所得控除または税額控除を受けられます。

賛助会員（個人）

※敬称略 五十音順

赤司　俊二
安次嶺　馨
東　寛
熱田　裕
雨宮　伸
鮎沢　衛
新垣　義夫
荒川　浩一
有賀　正
有阪　治
飯塚　幹夫
五十嵐　隆
池本　博行
石井　正浩
磯部　健一
位田　忍
井田　博幸
井田　孔明
板橋家頭夫
市田　蕗子
逸見　睦心
伊藤　悦朗
伊藤　末志
伊藤　進
伊藤　辰夫
伊藤　保彦
伊藤　雄平
稲垣　由子
稲葉　博士
猪股　弘明
今井　秀人
岩田　敏
岩田　力
岩元　二郎
内田　正志
内田　祐子
内山　聖
畝井　和彦
宇理須厚雄
江口　尚彦
衛藤　隆
衛藤　義勝
遠藤　文夫
小穴　慎ニ
老田　礼子
尾内　一信
大賀　正一
大川　洋ニ
大澤真木子
太田　節雄
太田　孝男
太田　秀臣
大塚　晨
大西　正純
大野　耕策
岡田　純一
岡田　満
岡部　一郎
岡本　博文
小川　俊一
沖　潤一
小口　学
奥山眞紀子
小栗　絢子
小田　慈
小田切美知子
小舘　三郎
小堂　欣彌
小野　厚
緒林　誠
賀川　治美
加治　正行
勝部　康弘
勝又　正孝
加藤　達夫
賀藤　均
加藤　誠
加藤　正彦
加藤　陽子
金子　一成
金子堅一郎
金原　洋治
加納　一彦
加納　芳郎
鴨下　和子
河　敬世
河西　紀昭
神崎　晋
貴田岡節子
北中　幸子
北本　育子
木野　稔
木村　宏
楠田　聡
楠原　浩一
工藤　充哉
工藤　協志
久保　政勝
倉辻　忠俊
小池　健一
小池　茂之
小泉　晶一
小泉ひろみ
河野　幸治
河野　陽一
香美　祥二
神山　潤
幸山　洋子
興梠　ひで
児玉　浩子
後藤　彰子
後藤　敦子
後藤　雄一
小林　繁一
小林　正夫
駒田　美弘
小山　典久
小山　佳紀
斎藤　博久
嵯峨　六雄
酒井　規夫
坂田　和信
佐久間弘子
佐々木　望
四方あかね
重松　陽介
柴田瑠美子
嶋田　泉司
志水　哲也
清水　俊明
下条　直樹
下村　国寿
重里　敏子
白井　真美
白石裕比湖
白川　嘉継
白幡　聡
末延　聡一
杉本　徹
杉本　久和
鈴木　敏雄
鈴木　康之
鈴木英太郎
須磨崎　亮
清野　佳紀
関　秀俊
関根　孝司
瀬島　斉
千阪　治夫
高島　俊夫
高橋　協
高橋　孝雄
高橋　勉
滝田　順子
宅見　徹
竹内　義博
竹重　博子
武知　哲久
竹広　茂子
竹村　司
田代　雅彦
田中　篤
田中　英高
玉井　浩
田村喜久子
田村　正徳
千田　勝一
長　和彦
長　秀男
塚田　明子
辻　美代子
土屋　興之
堤　裕幸
鶴澤　正仁
寺井　勝
寺門　道之
寺田　春郎
寺本　貴英
戸苅　創
富沢　修一
富所　隆三
永井　崇雄
永尾　尚子
長尾　秀夫
永島　哲郎
中畑　龍俊
中原　智子
成田　雅美
新津　直樹
西澤嘉四郎
西間　三馨
新田　康郎
布井　博幸
橋本　和廣
長谷川奉延
羽田野爲夫
服部　元史
花田　良ニ
馬場　常嘉
濱本　邦洋
早川依里子
早坂　清
原　正守
春田　恒和
日暮　眞
平尾　敬男
平林　伸一
平松公三郎
廣瀬　伸一
廣津　卓夫
福重淳一郎
深澤　隆治
福永　慶隆
藤井　達哉
藤枝　幹也
藤岡　雅司
藤木　伴男
藤田　弘子
藤野　滋
藤村　正哲
二村　真秀
船戸　正久
船曳　哲典
舟本　仁一
平家　俊男
別所　文雄
保坂シゲリ
保科　弘毅
細井　創
堀川　玲子
前川　喜平
前多　治雄
前田　美穂
正木　拓朗
松井　陽
松石豊次郎
松尾　宣武
松尾　雅文
松平　隆光
松永　伸二
松林　正
丸山　剛志
丸山　博
三池　輝久
水谷　修紀
南沢　享
宮島　祐
宮代　英吉
麦島　秀雄
村瀬　雄二
村田　要一
村山　明男
元山　福祥
森　哲夫
森内　浩幸
森尾　友宏
森川　昭廣
森口　直彦
森下　秀子
守田　利貞
森田　友明
森脇　浩一
師井　敏裕
八木　信一
安田　寛二
安田　正
柳川　幸重
柳澤　正義
籔内　弘
山内　穣滋
山川　毅
山形　崇倫
山口　清次
山下　薫
山城雄一郎
山田　恭聖
山登　淳伍
山野　恒一
山本　圭子
山本　威久
山脇　英範
横田俊一郎
横田　俊平
横谷　進
横山　義正
吉岡　和之
吉岡三恵子
吉田　康子
吉田ゆかり
芳野　信
脇口　宏
和田　和子
渡邊　信雄
渡辺　博
渡部　礼二

賛助会員（法人）

※敬称略 五十音順

エーザイ株式会社
MSD株式会社
杏林製薬株式会社
第一三共株式会社
田辺三菱製薬株式会社
帝人ファーマ 株式会社
株式会社ナチュラルサイエンス
Meiji Seika ファルマ株式会社
医療社団法人 メディカル・プロ
和光堂株式会社

協賛企業

※敬称略 五十音順

アステラス製薬株式会社
アストラゼネカ株式会社
一般財団法人
　阪大微生物病研究会
MSD株式会社
小野薬品工業株式会社
サノフィ株式会社
塩野義製薬株式会社
ジャパンワクチン株式会社
武田薬品工業株式会社
中外製薬株式会社
大日本住友製薬株式会社
田辺三菱製薬株式会社
帝人ファーマ株式会社
日本イーライリリー株式会社
JCRファーマ株式会社
日本マクドナルド株式会社
ノボノルディスクファーマ株式会社
マルホ株式会社

事務局

公益財団法人 小児医学研究振興財団
JAPAN FOUNDATION FOR PEDIATRIC RESEARCH

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B
TEL（03）5818-2601／FAX（03）5818-2602
e-mail:shouni-iken@jfpedres.or.jp

ホームページ http：//www.jfpedres.or.jp/

「子どもたちの世紀」について

News Letter題字の「子どもたちの世紀」は、日本小児科学会が創立百周年を迎えた当時の厚生大臣であられた小泉純一郎先生に揮毫をお願いしてご快諾頂き、総理大臣ご在任中にお書きいただいたものです。

編集後記

財団設立から7年度目の事業年度を迎え、より財団事業の見える化が求められていく時代に突入して参りました。国は、この少子化社会を持続可能な社会に構築していくために可能な政策を進めております。

当財団の目的及び事業は、正に今時代において求められている事業であり、先の市民公開講座におきましても収容定員を2倍も超える申込がありました。

加えて、若手小児科医師・研究者に対する研究助成・海外留学支援及び優秀論文アワードは、医療の向上に資する事業で、昨年度、事業の拡大を図り、多くの小児科医師等の応募をお待ちしているところです。

当財団の助成金等事業及び市民公開講座等の普及啓発事業は重要事業であり、かつ将来の小児の医療・保健及び福祉の向上に貢献するものと事務局一同は、強く認識し、励んでおります。

これも、ひとえに会員はじめ皆様のご支援によるものであり、深く感謝をいたしますとともに、引き続きのご支援を賜わりたいと存じます。**（事務局）**